

議 事 録

議 題	令和4年度一般社団法人東京都中小建設業協会との意見交換会	
日 時	令和4年 11 月 16 日(水)10:00～11:30	
場 所	東京都中小建設業協会 5階会議室	
出 席 者	■(一社)東京都中小建設業協会	7名
	□東京都住宅政策本部	6名
配布資料	○年間発注予定表(令和4年 11 月 4 日時点) ○今年度発注案件における既存住棟の解体の状況(令和4年9月 30 日時点) ○東京都住宅マスタープラン抜粋(2022(令和4)年3月)	
議 事 内 容		
<p>1. 挨拶・自己紹介</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 今後の発注予定について</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 年間発注予定、既存住棟の解体状況については、添付資料のとおり。 □ 既存住棟の解体状況については、11 月末に今年度最終版を公表予定。 <p>(2) 週休 2 日制の導入について</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 試行案件 2 現場(府中矢崎町、足立竹ノ塚)について、関連工事との調整を含め、概ね問題なく進行した。2024 年からの労働時間上限規制対応を踏まえ、対応工事を増やしていきたい。 ■ 2024 年から適用される時間外労働時間の上限規制への対応や、担い手の確保のためにも建設現場における週休 2 日制の実現が不可欠であり、「週休 2 日(4 週 8 休)工事」の早期実現をお願いしたい。若手を増やすためにも、発注者側も受注者側も意識を変えていかないとけない。 ■ 試行案件 2 現場は 4 週 8 休閉所としているか。 □ 週休 2 日実現のためには、設備工事との調整等が課題と考えており、休日を振り替えて対応していたこともあったようであるが、その後においてはほぼ土日閉所できたと伺っている。 ■ 今後発注される工事のほとんどは、工期が令和 6 年 4 月を超え、建設現場の労働時間上限規制が適用されることになるので、週休 2 日とするために工期を延ばさないといけなくなる。 ■ 週休 2 日制実現のために、労務費や一般管理費を引き上げていただきたい。国の動向を待たず、東京都が率先して引き上げを行っていただきたい。 □ 建築工事では、週休 2 日工事の場合においても、共通仮設費、現場管理費については共通費積算基準に基づき工期に応じて算出することになっている。前述した 2 現場においては、週休 2 日を前提として工期設定しており、従来の工事より約 60 日工期を増やして発注している。労務費については、週休 2 日工事における単価の補正方法に基づき、補正を行い工事の積算を行っている。 ■ 都の意見は分かるが、国の基準に必ずしも従わないといけないわけではない。 □ 都としては、国の動向を注視することも必要。また、本格実施の時期は決まっていないが、当然、目標として令和 6 年度からの週休 2 日原則化を視野に入れている。 		

(3) 書類削減等生産性向上の取り組みについて

- 令和2年度より、書類削減の取組を開始しており、引き続き検討を進めている。
- 書類が多いと残業が増えて若手が来ないという話につながる。受発注者ともに「減らしましょう」と言っているが、中々減っていない実情がある。最低限だけにして、「あったらいいよね」の書類を無くして欲しい。働き方改革に合わせて変えていかないと減っていかないので、減らす努力をして欲しい。
- 書類により品質管理を行っている部分もあるので、品質管理を落とさない範囲で削減していかないといけない。
- 東京都では書類の削減を進めていただいているが、長時間労働削減のためには更なる書類の削減が必要。その実現に向けて、都と受注者が共同で検証する場を設けていただきたい。
- 住宅政策本部では、他局に先駆けて令和2年度から約30件の書類の削減・簡素化等に取り組んでいる。今後も関連団体のご意見も踏まえ、書類の削減に努めていく予定である。また、工事完了後の引継書類の削減についても検討している。
- 電子共有システムの活用やメール等での提出ができるようにしていただきたい。
- 現在、全庁的に工事関係書類の電子化の検討を進めているところである。
- 国はJIS規格だと書類不要だが、認定工法についても品質管理の承認を除外する等ができれば、書類削減できるのではないか。最終的なゴールは、検査時にパソコンのみあればよい状態だと考えている。
- 土木工事では、ICT施工の場合、土工の断面等を、写真をほぼ撮らないでヒートマップという3次元データで確認している。建築工事では難しい部分もあるが、考え方を改めてICT等を活用していくことも必要ではないか。

(4) 工事現場における遠隔臨場について

- 現在遠隔臨場のモデル工事において、東西事務所も参加の上、TV会議PTを実施して検証中。材料搬入や現場確認を効率化できるか検討中。今年度は受注者ともオンラインで接続し、クラウドの活用方法などを検討していく。現場の職員にはスマートフォンが支給される。
- 受注者のICTの活用という観点で、コロナ渦以降はラインで写真を共有しているという意見も聞いている。工事現場では通信電波が、うまく届かないという課題がある。仮の対策として、足場にルーターをかけて電波を飛ばしたが、その都度ルーターをかけ直さないといけない。照明も必要という課題もある。
- 動画だと容量が大きいため、大容量データの共有ができれば書類削減につながると思う。
- BOX(クラウドソフトの一種)で共有することを考えている。
- 設備投資が必要になるので、費用をどうするのが課題。民間同士だと簡単にやりとりできるが、発注者である都との共有となると、セキュリティを上げないといけないのでハードルが高い。
- モデル事業以外でもBOXは使えるので活用を考えていきたい。
- 施工管理アプリは使用しているか。
- スマホでもすぐ見ることができるので、ラインワークス(クラウド型ビジネスチャットツール)が便利。
- 飛行機の中や海外でも、Wi-Fiがあればラインができてすぐに確認ができる。セキュリティを考えなければ公共Wi-Fiでも確認できてしまう。ある一定の確認までは簡単にできるが、セキュリティが必要になると大変になる。

(5) 工事現場等における脱炭素化に向けた取組について

- 東京都の取組として、東京都住宅マスタープランを3月に改訂し、ゼロエミッションや太陽光発電設備の容量拡大等を記載している。今年度になって、国の整備基準の断熱性能がZEH水準に変わったことで、都営住宅でも引き上げていく。
- 工事現場では、現場事務所のプレハブに太陽光発電設備設置や緑化をした事例、環境配慮型の重機の使用事例などがあればご意見を伺いたい。
- 太陽光発電設備だけではなく、高額ではあるが、蓄電池とセットで考える必要があるのではないか。
- 試行的に集会所に蓄電池を設置し、2現場で検証を行っている。
- 将来的に蓄電池と併用できるシステムにしておいた方がよいと思う。
- 都の税金を使用して太陽光発電設備を設置するのであれば、内需拡大のためにも、日本製を使用してほしい。
- 高断熱化など建物自体の性能での脱炭素化ということはやっているが、一方で建設工事過程のCO₂が大変多いと言われている。工事現場における脱炭素化ができないか。
- 中小企業にとって、現場における脱炭素化というのはハードルが高い。現場事務所の太陽光発電設備設置だと費用がかかる。都として、カーボンニュートラルに向けて進めるのであれば仕様書を変えて欲しい。
- 脱炭素化として通勤用の車をEVに変えるなどならできるとは思うが、将来的に点数評価にSDGsは入ってくるか。
- 今でも創意工夫に対して加点はできる。
- 積極的に点数をとっても都営住宅の建設工事は総合評価がほとんどないのであまり意味がない。
- 受注者の工事中の創意工夫等により、工事成績が優良になると、優先指名というメリットはある。

(6) その他

- 今年度は発注時期が年度後半に集中してしまっているが、今後も平準化に努めていきたい。発注時期の平準化以外で不調対策として考えられものはあるか。
- ガス給湯器の納品遅れや、鉄筋工が集まらないなど、現場での課題があれば教えて欲しい。
- ウクライナ問題、物価高騰及びそれらに伴う資材不足、現場代理人の適切な配置について、状況を教えて欲しい。
- 木材や鋼材セメント等の価格は上がっている。価格が上がっていないものがないような状況。よく言われているのは上がっていないのは人件費だけ。まだこれからも上がるのではないか。
- 簡易積算だと実勢価格とかなり差がある。単品スライドとインフレスライドを同時に行ってよいのが国のルールだが、中々同時に行ってもらえない。また、工事が進んでからでないと対応してもらえない。インフレスライドはどのぐらい行っているか。
- インフレスライドについては、今年度、複数件で合意し、設計変更を行っている状況。
- 鉄筋、杭、木工事は都の単価と実勢価格に乖離がある。杭工事は認定工法になるので決まったメーカーになるが、都の積算価格と実勢価格に乖離がある。
- 都の単価については、経済の動向を踏まえ、適宜、見直しており、今後も実勢価格の調査・把握を継続し、適切に反映させていく。杭工事における価格の乖離については、昨年度実施した調査

委託の内容を踏まえ、乖離の原因を精査中である。

- 鉄筋ロス分に関して、数量が15%程度合わない。
- 積算基準に基づいて鉄筋ロスを考慮し、数量を計算している。
- 外構工事は積算価格と実勢価格は大きく異なるので検討して欲しい。分離発注でなくてもよいので、ぜひ適正な価格にして欲しい。
- 外構工事に関しては別途意見交換を行いたい。不調にならないよう今後も意見交換をさせていただきたい。